

環境報告書 2021

《園児達による凧揚げ風景》



わかもと製薬株式会社

相模大井工場

目次

会社概要	2
1 ごあいさつ	3
2 環境方針	4
3 環境管理体制	5
4 専門部会の活動	5
5 環境負荷の全体像	6
6 環境への取り組みと実績	7
(1) 温室効果ガスの排出量の推移	8
(2) 大気汚染物質の推移	8
(3) エネルギー使用量の推移	9-10
(4) 用水使用量・公共下水道排水の推移	11
(5) 廃棄物発生量の推移	11
(6) 化学物質の管理	12
(7) PCB廃棄物の保管状況	13
7 環境会計	13
8 緊急事態の対応	14-16
9 社会貢献活動	16-17
10 終わりに	17

会社及び工場概要

- ・ 設立 1929年4月
- ・ 資本金 33億95百万円
- ・ 本社 東京都中央区日本橋本町
2-2-2
- ・ 事業内容 医療用医薬品・一般用医薬品 製造販売
- ・ 相模大井工場 神奈川県足柄上郡大井町
金手378
(敷地 67千㎡、建物延面積 23千㎡)
- ・ 工場及び研究所人員 180名
(2021/9/1 現在 協力会社を含む)
- ・ 常駐する協力会社
特別警備保障(警備業務)・(株)ジャパン・リリーフ (マイクロバス運転業務)・(株)東海ビルメンテナンス (清掃業務)・派遣会社5社
- エネルギー使用量
 - ・ 電力 7,894千KWh
 - ・ 都市ガス 2,350Km³
 - ・ ガソリン (社用車・マイクロバス) 1,819L
 - ・ LPG 65m³
 - ・ 井水 488千m³

環境への取り組み

令和3年7月1日からの大雨および8月11日からの大雨により被災されました皆様に対して、謹んでお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が確認されてから1年半以上が経過しました。ワクチン接種も進み、感染状況は下降傾向を示しておりますが、再び感染拡大の可能性もあり、未だ社会・経済活動に大きく影響を与えております。

一方地球温暖化等の気候変動については、地震、台風や集中豪雨等による大規模な自然災害の頻度が増え、地球環境の変異を感じる事が多くなりました。日本においても地球温暖化対策が緊急な課題となっており、昨年、温室効果ガス削減に向けた大きな目標が掲げられました。社会全体で環境保護と経済活動を両立させた社会を目指して、継続的な取り組みや改善を推進し、調和のとれた事業活動が必要となります。

相模大井工場では、昨年と同様に感染予防対策に取り組みながら、医療用医薬品や医薬部外品等の原料調達、製造から物流まで含めたサプライチェーンにおいて、環境負荷低減に努めながら生産活動を進めております。

エネルギーに関して、電気はガスコージェネレーションシステムを活用、都市ガスについては使用量の削減を推進し、省エネルギー対策およびCO₂削減に取り組んでおります。排水関係では排出量や水質のモニタリングにより異常排水のリスク低減を図り水質汚濁防止に努めております。また廃棄物関係では、資源の分別や再利用等を推進し、廃棄物の減量化に取り組んでおります。化学物質関係では、新規取り扱い化合物の有無、指定化学物質の取扱量や排出量を取りまとめ報告しております。

医療用医薬品や医薬部外品等の事業活動を通じて、皆様の健康や生活の向上に貢献していくとともに、エネルギーや廃棄物の削減に努めて環境保全活動を推進し、持続的な発展に向けて努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年10月1日

わかもと製薬株式会社 相模大井工場

執行役員 生産本部長

相模大井工場長 谷口 誠

環 境 方 針

わかもと製薬（株）相模大井工場は、常に「生命の尊厳」を第一義としていることから、地球環境の保全が人類共通の最重要課題であり、環境問題への取り組みを企業責任と認識し、次世代に「住み良い豊かな地球」を引き継ぐため、下記行動指針に基づき環境保全活動を積極的に推進する。

行 動 指 針

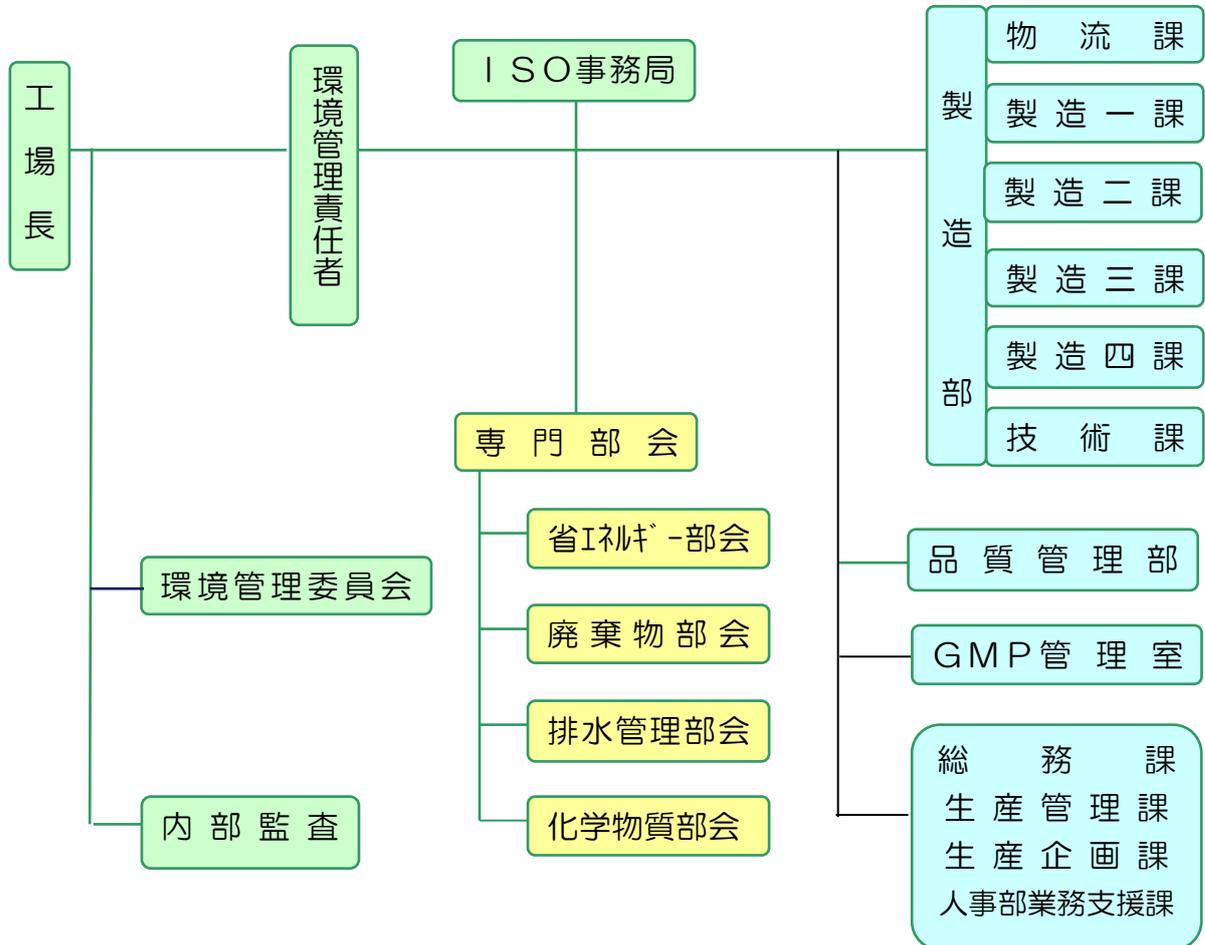
1. わかもと製薬（株）相模大井工場で製造する、医薬品原料・医薬品・医薬部外品・診断薬及び食品用乳酸菌の生産に伴う事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で汚染の予防に努める。
2. 環境に関連する法規制及び当工場が同意するその他の要求事項を順守する。
3. 省資源、省エネ、廃棄物の削減及び再資源化を推進し環境負荷低減に努める。
4. 農業用地に隣接した立地条件を認識し、排水の管理を推進する。
5. 地域社会との共生に努める。
6. 定期的な環境マネジメントシステム監査及びシステムの見直しを通じ、継続的改善を図る。

2016年10月01日

わかもと製薬株式会社相模大井工場
工場長 谷口 誠

3 環境管理体制

わかもと製薬株式会社相模大井工場の環境管理は、以下のような組織で運営しています。



4 専門部会の活動

省エネルギー部会

省エネルギー、CO₂排出量の削減活動の推進・啓発を目標に、省エネタイプの機器等の導入、冷房・暖房の適正温度の順守活動、各部門のエネルギー使用量をフィードバックすることにより、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

廃棄物部会

廃棄物排出量の減量化計画立案、推進、リサイクルの推進・啓発活動を行い、リサイクル率の向上及び廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。

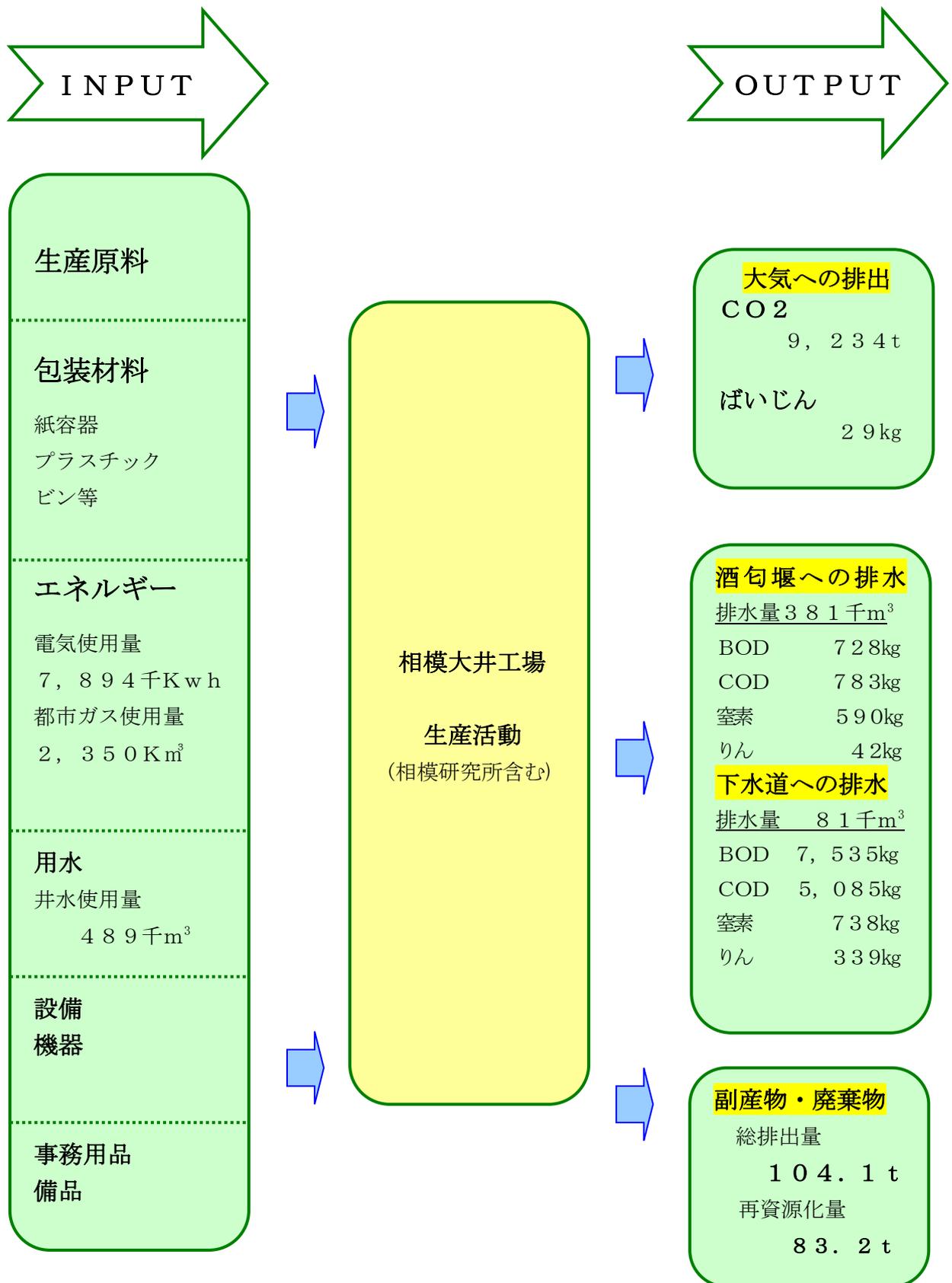
排水管理部会

排水管理を推進・啓発し、一般排水、公共下水道排水への未処理排水等を流出させないように取り組んでいます。

化学物質部会

化学物質の管理を推進、啓発活動を行い、取扱量、排出量の把握と削減に取り組んでいます。

5 環境負荷の全体像（2020年度 年間使用、排出量）



6 環境への取り組みと実績

環境目的・目標マネジメントプログラム2020に定めた実施項目に従い、環境保全活動を推進しました。主な活動実績は下記の通りです。

2020年度 活動結果

目 的	目 標	結 果	備 考
温室効果ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> 電力使用量の削減 製造部門(前年度原単位以下) 非製造部門(前年度維持) 都市ガス使用量の削減 製造部門(前年度原単位以下) 非製造部門(前年度維持) 社有車等燃料使用量の削減 ガソリン(28.3L/月以下) (社用車・軽トラ) ガソリン(139.5L/月以下) (マイクロバス) 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 91.0% 達成率 109.2% 達成率 92.1% 達成率 101.1% 達成率 105.5% 達成率 110.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P8 を参照
廃棄物の減量化	<ul style="list-style-type: none"> 資源化率の向上 (88%以上) 排出量の削減 (前年度以下) 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 79.9% 達成率 126.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P11-12 を参照
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> コピー紙使用量の削減 (前年度以下) 副産物の有効利用 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率 104.0% 肥料として農家等に譲渡 	
環境管理の改善	<ul style="list-style-type: none"> PCB コンデンサー等の委託処分 作業効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> すべて処理済み。 作業等の改善提案として186件提出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P13 を参照
法順守体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> PRTR 法対応の推進 緑地の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> 特定有害物質の県への届出。 定期的に緑地の除草及び樹木の剪定を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細は P12 を参照
地域社会との共生	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会で開催する美化活動等への参加 地域行事への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で、各種参加型イベントが中止となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> P16~P17 を参照

(1) 温室効果ガス排出量の推移

2020年度の電力・都市ガス（CGSを含む）からのCO₂排出量9,234 tでした。2019年度（9813.7 t）より579.7 t減少しました。削減率は6.3%でした。

温室効果ガス（CO₂）排出量 単位：t （過去8年間の推移）

注）2020年度シナジアパワーのCO₂排出原単位は炭素クレジットを反映した値 0.467（kg-CO₂/kWh）、都市ガスの排出係数は2.36（kg-CO₂/m³）を使用した。



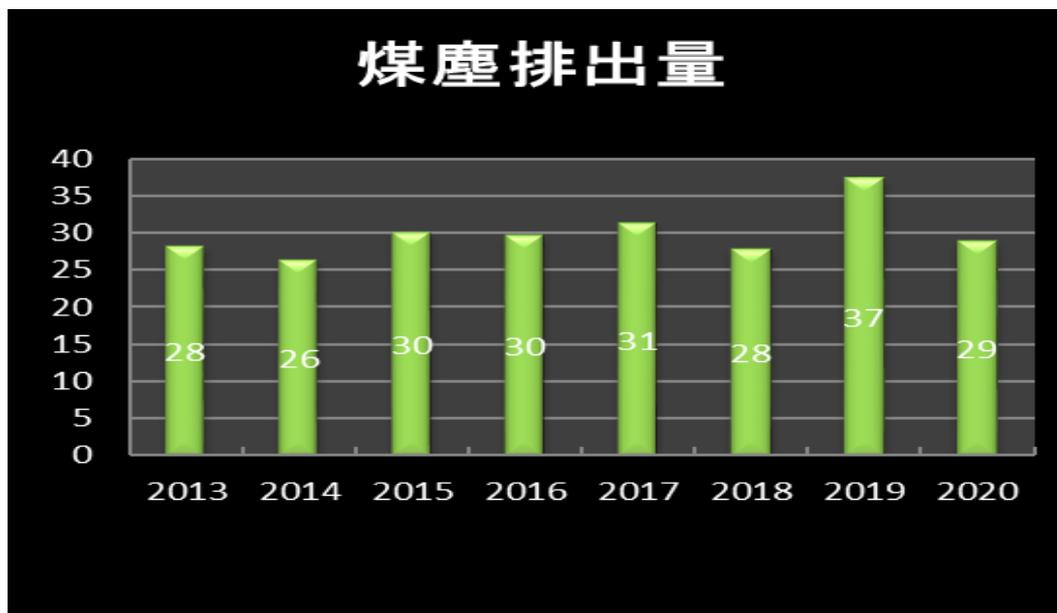
(2) 大気汚染物質の推移

1) ばいじん排出量の推移

2020年度の煤塵排出量は29 Kgでした。2019年度（37 kg）と比べて8 Kg減少しました。煤塵排出量は、ボイラ6台で合計が15 kgで、CGS 1台で14 Kg、合計が29 kgとなります。削減率は21.6%でした。

ばいじん排出量 単位：Kg （過去8年間の推移）

注）ばいじん量については、実測した2回の平均を使用しています。



(3) エネルギー使用量の推移

1) 電力使用量の推移

2020年度の電気使用量は、7,894千Kwhでした。2019年度(8,558千Kwh)比較すると実績で664Kwh減少し削減率7.8%となりました。電力の契約電力は1,800KWHで、CGSは最大700Kwhまでの電力発電ができます。

電力使用量 単位：千Kwh (過去8年間分の推移)



2) 都市ガス使用量の推移

2020年度の都市ガス使用量は2,350Km³でした。2019年度(2,508km³)に比較して158Km³減少し、削減率6.3%となりました。

重油・都市ガス使用 単位：ガス Km³ (過去8年間分の推移)

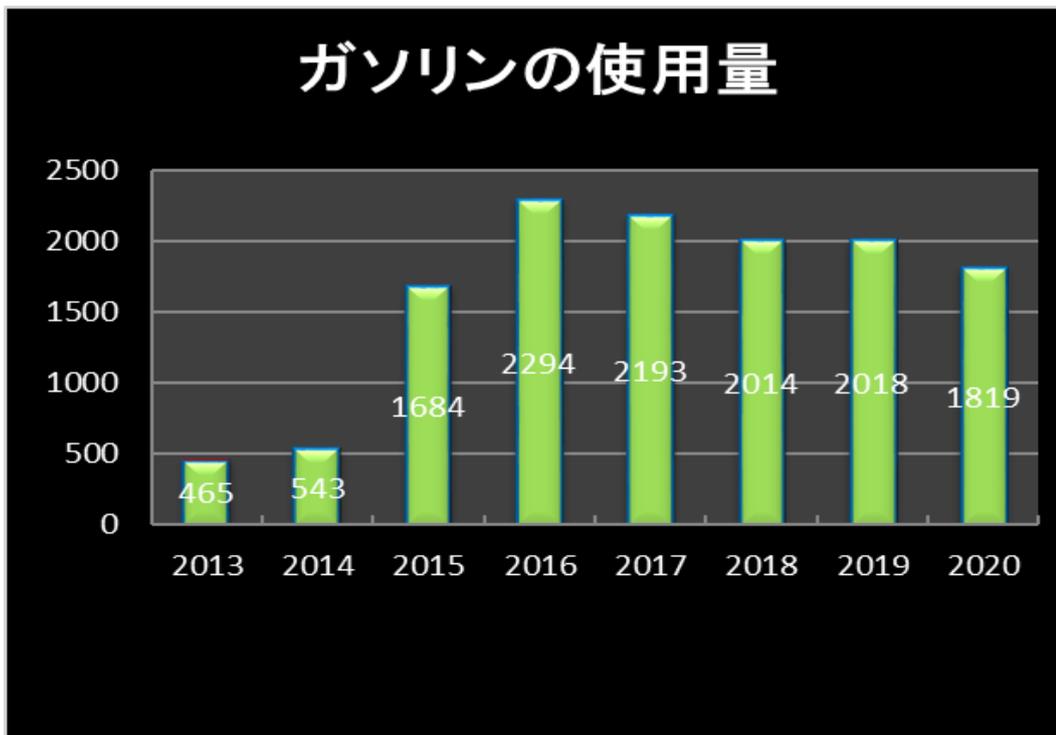


3) ガソリン（社用車・送迎マイクロバス）・LPG 使用量の推移

2020年度のガソリンの使用量は、1,819ℓでした。2019年度（2,018ℓ）に比較して199ℓ減少し、削減率は9.9%となりました。また、LPGについては、2020年度は64m³使用しました。2019年度（129m³）比較して64m³減少し、削減率50.4%となりました。

ガソリン使用量

単位：ガソリン L LPG m³（過去8年間分の推移）



LPG使用量



(4) 用水使用量及び公共下水道排水の推移

2020年度の工場（研究所含む）用水使用量は489千 m^3 を使用しました。2019年度（532千 m^3 ）に比較して43千 m^3 減少し、削減率は8.1%となりました。また、2020年度の公共下水道は80.8千 m^3 排出しました。2019年度（62.3千 m^3 ）と比較すると、18.5千 m^3 増加し、29.7%の増加率となりました。今後も排出に関しましては、削減と法規制値を順守した管理を実施して行きたいと考えます。

用水使用量・公共下水排水量 単位：千 m^3 （過去8年間分の推移）



(5) 廃棄物発生量の推移

日頃より、産業廃棄物量の削減、リサイクル率向上に努めています。2020年度は年間総廃棄物量が104.1t発生し、2019年度（141.8t）から37.7t削減し、削減率は26.6%となりました。また、リサイクル率は目標値としている88%に対して、80%という結果でした。今後も、廃棄物の減量化やリサイクル率向上に向けて活動してまいります。

廃棄物発生量 単位：トン 廃棄物再資源化率 単位：% （過去8年間の推移）



廃棄物保管施設



生ゴミ処理機

64. 1M × W4.35M × H3.8M

2 t フォークリフト	1 台
1.5 t 計量器	1 台
100kg 計量器	1 台
1.5 t チェーンブロック	2 台
プレスコンパクター	1 台
破碎機プラスチック用	1 台
アンプル屑用	1 台
1 t 保管箱	54 基
1 t ガラス屑用	8 基
生ゴミ処理機	1 台



破碎機プラスチック用

(6) 化学物質の管理

P R T R法に沿った形で、第一種指定化学物質 年間取扱量1 t 以上、特定第一種指定化学物質0.5 t 以上の物質については、取扱量・排出量等を神奈川県に届出ることになっております。弊社での対象物質はnヘキサンだけとなっておりますが、主に使用している化学物質の購入量をまとめております。

主な使用管理対象物質（前年度との比較）

指定化学物質名		取扱量 (Kg)	
		2019年度	2020年度
第一種	アセトニトリル	621.5	310.3
〃	クロロホルム	2.4	6.0
〃	ホルマリン	709.1	419.0
〃	ホウ酸(ホウ素化合物)	347.0	300.4
〃	nヘキサン	6,246.4	3,250.0
第一種特定	ベンゼン	0.8	1.3

(7) PCB廃棄物の排出と保管状況

高濃度PCB含有物としては、すべて処理が終了しています。

7 環境会計

集計範囲：わかもと製薬(株)相模大井工場（一部研究所も含む）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日

環境保全コスト

(単位：千円)

コスト分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト		7,410	26,104
公害防止コスト	・排水処理施設の維持管理 ・CIP排水中和装置設置	6,882	14,497
地球環境保全コスト	・ボイラの維持管理	6,460	6,758
資源循環コスト	・廃棄物処理委託 ・廃棄物のリサイクルなど	2,916	4,848
上・下流コスト	・容器包装再商品化委託費 ・廃棄製商品の適正処理	2,501	5,937
管理活動コスト	・環境マネジメントシステム維持・運用 ・排水、大気等の分析調査 ・事業所内の緑地保全	2,268	4,651
研究開発コスト	・動物空調維持管理	5,276	5,276
社会活動コスト	・社会貢献活動 ・環境保全に関する団体等への寄付金	36	36
環境損傷コスト	—	0	0
その他のコスト	—	—	—
合計		17,391	42,004

環境保全効果

▲は増

効果の内容	単位	2019年度	2020年度	環境保全効果
電気使用量	千Kwh	8,558	7,894	664
都市ガス使用量	Km ³	2,508	2,350	158
ガソリン・軽油使用量	ℓ	2,018	1,819	199
井水使用量	千m ³	532	489	43
CO ₂ 排出量	t	9,814	9,234	580
廃棄物排出量	t	141.8	104.1	37.7
水質（BOD、COD）	t	7.6	14.1	▲6.5

8 緊急事態への対応

相模大井工場（研究所含む）では緊急事態を想定した防災訓練及び火災予防訓練等を実施しております。また、大規模地震災害後を想定した、工場・研究全体での避難訓練等も計画的に行っております。また、会社全体では大きな災害が起きた場合、従業員の安否確認をする手法として、ANPIC（安否確認システム）を利用して、年に1回から2回程度の会社全体での訓練を行っています。また、大型台風や、ゲリラ豪雨等による天候悪化により、社員が公共交通機関で帰宅できなくなる「帰宅困難者」が発生しないよう、迅速な対策を取るよう心がけています。

● ガス漏れ訓練（自衛訓練）

2020年度は、12月23日に技術課内部の特定業務訓練の一環として、地震等によるガス漏れが生じたと想定して、当該ガス会社が到着し対応するまでの時間、工場内に本部を立ち上げると同時に、ガス漏れ付近を封鎖する訓練を行いました。

● 避難訓練

相模大井工場（研究所を含む）では、地震等による大規模災害の対策として、総括的な防災訓練を11月19日に行いました。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、工場内3ヶ所に避難場所を設定しました。役員によるテント設営訓練、各職場の避難誘導班による指定された避難所までの誘導訓練、避難後の人員確認等、確実かつスピーディーに行動できるように毎年行っています。また、避難訓練での移動の時は、ヘルメット着用を義務付けております。

《防災隊役員によるテント設営訓練》



●放水訓練と消火訓練

弊社で組織している自衛消防隊員への訓練として、11月19日に放水訓練を小田原消防署の隊員による指導で実施いたしました。消火栓の取り扱い方や、消火ホースのつなぎ方、操法管槍の持ち方、放水に指示の掛け声等、細かく訓練しました。

《小田原消防署員の指導による放水訓練》



また、同日に小田原消防署の隊員による、新入社員中心の消火訓練も行いました。新入社員は、消火器の取扱いについて消防署員からレクチャーされました。今回は、水消火器を使用して消火訓練を実施し、参加者は真剣な表情で訓練していました。

《新入社員による消火訓練》



●自衛消防隊ポンプ班による消火ポンプ稼働訓練

当工場では、自衛消防隊組織の中にポンプ班があります。工場内に消火栓は完備していますが、消火栓が届かない地区もあります。その部分を補うために可動式消火ポンプが2台完備してあります。ポンプ班は、ポンプの可動手順と能力の確認を毎年行っています。また、月に一度はエンジンの稼働点検も行っています。

《自衛消防隊による可動式消火ポンプ訓練》



9 社会貢献活動

● 美化活動

本年度予定されていた、5月の酒匂川統一美化キャンペーンと、11月の大井町クリーンキャンペーン2020については、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となりました。

●自動販売機等による募金活動と食品自動販売機

飲料用自動販売機にて売り上げの一部を、非営利団体を通し寄付金として、東日本大震災への義援金や盲導犬協会の募金支援活動に取り組んでいます。また、赤い羽根募金やエコキャップ活動を通じて、社会貢献活動への協力参加も行っています。また、飲料用の自動販売機の一台中、災害時に飲料水が取り出せるようになり、災害時対策も取っています。

福利厚生面では、食堂が廃止された時に、売店も閉鎖されたためコンビニエンス提携自販機の設置を2014年3月から設置し、好評を得ています。

《募金付の自動販売機》

《左側の自動販売機が、コンビニ提携の自動販売機》



《大井町福祉協議会への協力としての赤い羽根募金》



● 献血運動

当工場(研究所を含む)は、年に2回開催しています。2020年度の開催日は1回目が7月1日で12名、2回目が12月17日に15名の協力がありました。今後も継続して献血運動を推進していきたいと考えます。

● 地域社会との交流

例年は地域社会とのコミュニケーションを図るために、自治会の夏祭り(7月)、どんど焼き(1月)、また、自治会が毎年計画している「花見の会」についても、昨年同様新型コロナウイルスの影響により中止となっています。

10 おわりに

わかもと製薬相模大井工場では、地域と共生を重視しています。その一環として、グラウンドの使用の要望がある場合、条件にもよりますが大井町の在住者及び各種団体にグラウンドをお貸ししています。

表紙の写真は、工場近くにある大井幼稚園の園児たちによる、「凧揚げ大会」の風景写真です。園児たちが自分たちで作った凧を、グラウンド内を駆け回って凧揚げをしている姿を見て、私自身の子供ころを思い出しました。上手に上がっている凧もあれば、地面に落ち引きずって壊れてしまった凧など様々でしたが、帰るとき、満面の笑顔で手を振ってくれた仕草は、天使のようにも見えました。

今後も、弊社で地域の方との交流は進めて行きたいと考えております。

本報告書の作成にあたりましては、皆様方からの貴重なご意見・ご感想・ご指導を頂き、作成させていただいています。内容について、さらなる充実を図っていきたくと考えております。また、何かございましたら下記の事務局までお申し出を頂きますようお願い申し上げます。

「環境報告書2021」に関する意見・お問い合わせは

わかもと製薬株式会社 相模大井工場 ISO事務局

〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手378

TEL:(0465)83-3311

FAX:(0465)82-0861